

# ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成13年 **2001.3**

月刊アカンサスニュース  
金沢大学広報紙 第55号

## 金沢大学フォーラム 佐藤禎一日本学術振興会理事長 特別講演会

TOPNEWS

2月8日、事務局大会議室で、金沢大学フォーラムとして、佐藤禎一日本学術振興会理事長による特別講演会が行われた。

[3頁に関連記事]



佐藤理事長による講演 事務局大会議室で

## 「教育」をテーマに 第2回運営諮問会議

2月22日、第2回運営諮問会議が開催された。

今回は、「教育」を議題に設定し、石原多賀子会長(金沢市教育委員会教育長)の開会あいさつで会議が進行した。

始めに、本学各副学長から教育改革の取組状況等について説明があり、続いて、本学学長から諮問された(1)学部、大学院、専門大学院を基幹組織とする教育・研究のグランドデザイン、及びロースクール等を候補とする専門大学院の構想(2)学生の入口と出口の現状、及びその改善に向けたシステムの柔構造化等の取組(3)学部・学科のカリキュラムや教育方法など教育全体

の在り方(4)「少子化」「高齢化」「情報化」「国際化」の時代にあつて、社会の要請と接続に立った、学部や学科の性格や規模(5)教育開放の取組と地域社会における本学の役割、の5点を中心に活発な討議が行われ、会議を終えた。



第2回運営諮問会議

## 巻頭言

### 年度末に想う



副学長  
花岡 美代次  
(薬学部教授)

早くも年度末を迎えた。想うことのみ多くて、年々一年の過ぎ行く速さを嘆くばかりである。

昨年度の共同研究は36件であった。他大学と比べてほめられた件数ではなかった。昨年6月、本年度の目標件数を70件に設定し、各部局に割り当てた。研究・環境委員会及び総務・企画委員会で契約件数を毎月発表し、目標達成をお願いしてきたところ、2月末現在77件となり、目標件数を突破することができた。センター長始め先生方のご努力の賜であり、本学にはまだまだ潜在能力が十分あることの証左でもある。それにしても、目標件数を90件とすべきだったと今は臍をかんでいる。

医学系研究科重点化概算要求を契機に、大学院重点化等構想検討コアグループ会議が持たれ、本学大学院のあるべき姿を議論した。各研究科から出された概算要求や将来計画に対して各委員から忌憚のない意見・注文が出された。これまで、他部局の概算要求に口を差し挟むことは稀だっただけに大変有意義で、部局間

の壁が少しは薄くなったかな、との思いであった。幸い平成13年度から医学系研究科の部局化が実現し、次に続く自然科学研究科の部局化、社会環境科学研究科の区分制化、保健学専攻の博士課程設置に向けて弾みがついた。

平成12年度から校費の積算方法が改められたのに伴い、本学では平成13年度から新たな配分法を実施することになり、「財務に関する検討委員会」が発足した。各部局の損得勘定（感情？）で、收拾のつかない展開をするのではないかと嫌な予感で委員会が始まった。激論をたたかわしたものの、各委員からは大局的・建設的な意見が次々と出され、案に相違して、割合円滑に配分方針案が纏まった。今後は、外部資金を大きくし、無駄を省き、いかに教育・研究の活性化を図るか、皆で知恵と努力を出し合いたい。

本学は単科大学の寄せ集めで、総合大学とは名ばかりだと揶揄する向きがないわけではない。しかし、真の総合大学に向けて、いろいろな芽が出てきている。大切にしたい。世は春である。芽が大きく伸び、立派な実を結ぶ秋を迎えたい。

## 目次

金沢大学フォーラム 佐藤禎一日本学術振興会理事長特別講演会…… 1	行政サービスの充実を職員の名札着用開始…………… 7
「教育」をテーマに 第2回運営諮問会議…………… 1	「大学評価」「外部評価」の取組み…………… 8
年度末に想う 副学長 花岡美代次…………… 2	教育学部 遠隔学習についてカナダで交流…………… 9
江蘇省大学間友好交流代表団が本学を訪問…………… 3	英語発音をわかりやすく 外国語教育センター講演会… 9
これまでの大学改革を振り返り「これからの高等教育」を語る… 3	「知っていますか 日本の作法」…………… 9
入学者選抜試験 前期日程 始まる…………… 4	和田副学長 角間の里山について提言…………… 10
微生物で重油汚染を一掃 公開国際シンポジウム…………… 4	本学へのお客さま…………… 10
活かそう野外体験 教育学部主催公開シンポジウム…………… 5	金沢大学サテライトプラザ…………… 11
角間の里山自然学校ワークショップ 2001年 私たちの提言… 5	金沢大学サテライトプラザ新年度から「西町教育研修館」で常設… 11
金沢大学放送講座がスタート 知の集積回路：プロジェクト「金沢」II… 6	英文リーフレット完成…………… 11
外国人留学生 見事なお点前…………… 6	本学職員 米国タフツ大学へ調査出張…………… 12
「昭和基地到着」「観測も順調」久保さんからの近況報告… 6	キャンパス点描…………… 12
理学部附属臨海実験所 真新しい浮桟橋…………… 7	編集後記…………… 12
教育学部附属養護学校 体育館新築完了…………… 7	

## 2月のニュースの杜

江蘇省大学間友好交流代表団が  
本学を訪問

2月20、21日の2日間にわたり、江蘇省の8大学で構成する大学間友好交流代表団が本学を訪問した。初日は、丁曉昌団長以下7大学11人が本学を訪れ、林勇二郎学長、花岡美代次副学長、畑安次副学長等と懇談した。会場の事務局大会議室では、本学からの大学概要説明と相互による質疑応答が行われた。2日目は、南京経済学院が経済学部を訪れた。

今回の訪問は、昨年2月に、江蘇省において、石川県内の8大学と江蘇省内の8大学とが調印した複数大学間友好交流協定に基づいたもの。



あいさつする丁曉昌団長

これまでの大学改革を振り返り  
「これからの高等教育」を語る

2月5日、事務局大会議室で、平成12年度第3回金沢大学フォーラムとして、佐藤禎一日本学術振興会理事長（前文部事務次官）を招いて「日本の高等教育について」と題する特別講演会を実施した。

佐藤理事長は、戦後の教育システムの変遷、臨時教育審議会と答申及び教育改革プログラムについて振り返り、大学審議会の活動についてはグローバル化時代の高等教育を中心に説明し、中央教育審議会「接続」の答申、「教養」の審議のまとめを、世界の教育改革との連携ではケルンサミット、G8教育大臣会議・沖縄サミットなどについて述べるなど、全体にわたって随所に海外の事例を交えた迫力のある講演が行われた。

なお、このフォーラムは、水上事務局長が司会をし、林学長があいさつをした。

学長・副学長をはじめ教職員約110人で会場は満員になり、佐藤理事長の説得力ある講演に聞き入っていた。

〔1頁に関連記事〕



佐藤理事長による講演 事務局大会議室にて

## 2月のニュースの杜

## 入学者選抜試験 前期日程 始まる

2月25日、「平成13年度金沢大学入学者選抜試験（前期日程）」が行われ、受験生は緊張した面持ちで問題に挑んだ。

なお、3月9日に合格発表が行われ、12日の後期日程試験へと続く。

志願者総数 4,092人

受験者総数 3,912人



教育学部試験場



文・法・経済学部試験場にて

## 微生物で重油汚染を一掃 公開国際シンポジウム

2月10日、理学部において、公開国際シンポジウム「重油汚染とバイオレメディエーション」が開催された。当日は、ロシア科学アカデミー・イルクーツク湖沼研究所のヴァレンティナ・パルフィノヴァ主任研究員や本学早川和一薬学部教授などが微生物による汚染浄化について研究成果を発表し、研究者、学生など約50人が参加した。

このシンポジウムの中で、イルクーツク湖沼研究所との共同研究の継続、バイカル湖の共同調査等が確認された。

なお、このシンポジウムは、田崎和江理学部教授の呼びかけにより実現したロシア科学アカデミー・イルクーツク湖沼研究所のヴァレンティナ・パルフィノヴァ主任研究員等との国際プロジェクトの初会合でもある。〔10頁に関連記事〕



## 2月のニュースの杜

## 活かそう野外体験 教育学部主催 公開シンポジウム

教育学部は、2月3日（土）、金沢大学サテライトプラザ（石川県社会教育センター内）で、公開シンポジウム「野外体験と総合的学習」を開催し、約60人が参加した。

教育学部の授業科目「野外教育論」は、教員を目指す学生たちに野外体験を通して実践的な指導力の向上を図ることを目的としており、当日は、この野外体験を教育現場で実施している総合的な学習にいかにかかすかについて討論した。

このシンポジウムでは、永吉宏英大阪体育大学教授、作本邦彦石川県立白山ろく少年自然の家所長、横山鼓子金沢大学大学院教育学研究科学生、北清治川北小学校校長、横山昌章犀川小学校教諭をシンポジストに招き、内田忠平大学教育開放センター教授がコーディネーターを務めた。



## 角間の里山自然学校ワークショップ 2001年 私たちの提言

角間の里山自然学校は、2月11日（日）、大学教育開放センターで、角間の里山を拠点にした学習プログラムの開発と充実を図ろうと、「角間の里山自然学校ワークショップ」を開催した。

当日は、県外の大学、県内関係機関から講師を招き「先進

的立場から」「活用者の立場から」「専門的立場から」という3部構成で進められ、参加者約100人とともに大学と里山の在り方を検討した。

〔10頁に関連記事〕



角間の里山自然学校ワークショップ 大学教育開放センターにて

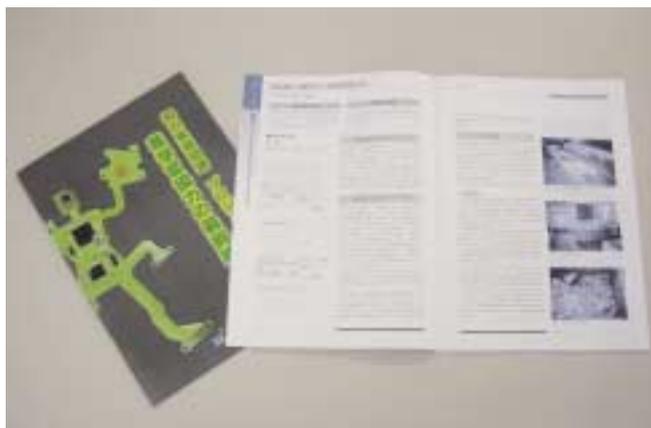
## トピックス

## 金沢大学放送講座がスタート

## 知の集積回路：プロジェクト「金沢」II

2月2日から3月2日まで全5回にわたる放送講座の放映が開始された。地域、健康、環境、情報・教育の各分野について、今話題となっていることをテーマに大学の教育・研究の最先端を地域社会に向けて発信している。

この放送講座は昨年度に続き2年目。

外国人留学生  
見事なお点前

2月27日、留学生による茶会が、角間キャンパスのゲストハウスで催された。

茶道講座は、留学生センターの課外活動の一環として、平成11年度前期より村田泰恵講師（理学部教官）の指導のもとに行われてきたものであり、この度、第3回目として、後期11回のコースの総仕上げとしての茶会が催された。留学生センター長をはじめ、十数名のゲストを招いて、きもの姿の留学生による見事なお点前が披露された。留学生の日本文化に対する理解度も、回を追うごとに深まり、受講希望者も増えてきている。

「昭和基地到着」「観測も順調」  
久保さんからの近況報告

南極越冬隊員の久保栄さん（本学技術支援センター技術専門職員）から近況報告が届いた。

内陸の基地「ドームフジ」での観測を済ませ、2月10日、ついに昭和基地に到着した。到着後1週間は、機材・装備類の片付け、基地清掃作業などで忙しく過ごしているとのこと。



内陸の観測拠点に保管されている「氷点コア」を抱えて

## トピックス

## 理学部附属臨海実験所 真新しい浮棧橋

理学部附属臨海実験所では、昭和37年に設置された1号突堤が取りはずされ、新しい浮棧橋が設置された。海洋研究につながる乗船を支え続けた突堤も、長年の波浪と風雪の影響の中で、支柱に著しい損傷を受け、満潮時にはその頭を海中に浸すまでとなっていた。新世紀を迎え、この突堤は役目を終えて浮棧橋にその任務を譲り渡した。

今は、真新しい浮棧橋が九十九湾に胸を張っている。

古い突堤



新しい棧橋

## 教育学部附属養護学校 体育館新築完了

このほど、昨年からの新築工事が進められていた教育学部附属養護学校（東兼六キャンパス）の体育館が完成した。

なお、養護学校校舎の全面改装もあとしばらくで完了する。

新しい体育館ができることで、卒業生にはいい贈り物になった。新しく広々としたフロア、立派な舞台に児童も先生も喜んでいる。

（浦田東作副校長）



新体育館で卒業式の練習

## 行政サービスの充実を 職員の名札着用開始



本学では、平成13年3月1日から、学生や外来者への一層の行政サービスを図るため、事務系職員の名札着用がスタートした。

また、職場での名札着用により職員自身の職責の自覚を促すとともに、大学運営の円滑化を更に深める目的もある。

なお、医学部及び同附属病院では、患者サービスの一環として、既に名札の着用を実施している。

## 点検評価・いま

### 「大学評価」「外部評価」の取組み

金沢大学は、外部評価を中心に、多くの点検・評価に取り組んでいる。その主なものを紹介する。

#### ◆ 大学評価・学位授与機構による大学評価

平成12年度から大学評価・学位授与機構による、大学評価が実施されることとなった。

この評価は、個性が輝く大学として発展するために、大学の教育研究活動の改善と、諸活動の状況や成果を社会に示し、公共的な機関としての大学の設置・運営の理解と支持を得られるよう支援・促進していくことが目的で行われる。

内容は3区分の評価だが、今回金沢大学が対象となるのは、全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」及び「教養教育」、分野別研究評価の理学部と自然科学研究科（理学分野）である。

最大の特徴は、大学独自で設定した目的及び目標に則した評価であり、またそれが評価報告書として、刊行物やウェブサイトで全国の国立大学等とともに広く公表される予定。

#### ◆ 財団法人大学基準協会による大学評価（相互評価）

平成12年8月に自己点検・評価報告書及びデータ調査を提出し、「アカンサスニュース」第49号既報）12月には実施視察も行われた大学基準協会による相互評価は、平成13年3月中に勧告・助言が送付された。

7月には本学の『相互評価報告書』を刊行する予定。

#### ◆ 部局の外部評価

平成12年度は、がん研究所の国際外部評価、理学部附属臨海実験所の外部評価が行われた。

平成13年においては、文学部、法学部、経済学部、社会環境科学研究科、理学部附属低レベル放射能実験施設で実施される。平成14年度は教育学部で予定されている。



大学評価・学位授与機構による「大学評価」説明会 2月13日、東京にて

#### 平成12年度に着手する大学評価のスケジュール

平成13年 1月	全学テーマ別評価の実施方針作成
平成13年 2月	実施要項等の通知
平成13年 2月	説明会の実施
平成13年 4月	目的・目標に関する事前調査回答の提出
平成13年 5月	実情調査回答票の提出（教養教育）
平成13年 7月	自己評価書・根拠資料の提出
平成13年 8月～	書面調査・ヒアリングの実施
平成13年10月	実情調査結果の公表（教養教育）
平成14年 1月	大学へ評価結果通知
平成14年 2月	意見の申立て
平成14年 3月	評価結果の確定・公表

#### 外部評価報告書の発行状況

部 局	報告書等の名称	発 行 年 度						備 考
		7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	
理 学 部	外部評価報告書						○	
理 学 部 附属臨海実験所								
医 学 部						○		
附 属 神 経 情 報 研究施設を中心に			○					
薬 学 部							○	評価は11年度に実施
工 学 部				○	○			
附 属 電 磁 場 制 御 実 験 施 設					○			
が ん 研 究 所		○					○	

## トピックス

## 教育学部 遠隔学習について カナダで交流

教育学部附属教育実践総合センターの黒田晴夫助教授，中川一史助教授と教育学部総務係の林透事務官が，2月5日に，カナダのビクトリアにある教育施設「OPEN LEARNING AGENCY」を訪問した。

同施設は，初等教育から高等教育まで幅広い範囲で遠隔学習教材の開発とその提供をカナダ国内で積極的に行っている。今回の訪問では，これまでの研究成果に係るプレゼンテーションも交えながら，遠隔学習の現状と展望について議論し，今後とも協力関係強めていくことを約束した。



同施設前での記念撮影

## 英語発音をわかりやすく 外国語教育センター講演会



島岡教授による講演

外国語教育研究センターでは，2月15日，総合教育棟で，茨城キリスト教大学の島岡丘教授を迎え，「自信がつく英語発音－カタカナを活用して－」と題した講演会を開催した。学内外から学生も含め，約35人が参加した。

講演では，英語のつづり字と音の特徴の分析を踏まえ，日本語の特徴を生かしたカタカナ表記を使って，日本人学習者にとって難しい発音を身に付ける方法が示された。わかりやすい具体例がユーモアを交えて多く引用され，参加者から好評であった。

## 「知っていますか 日本の作法」

2月7日，附属小学校で，総合的な学習として「茶の湯体験」が行われた。この日は，講師として，裏千家の師範の北尾玲子氏を招き，作法の意味や茶の湯の手ほどきを受けた。

参加した4年生，及び複式学級の児童計58人は，慣れない正座で足をしびれさせながらも，日本の伝統文化に直に触れる貴重なひと時を過ごした。この授業は民放のテレビで放映された。

なお，14日にも別のクラスの計65人が参加して同様の体験が行われた。



興味深げに見入る児童

## 学長・副学長室

### 和田副学長 角間の里山について提言

2月11日（日）に行われた「角間の里山自然学校ワークショップ」で、和田敬四郎副学長（理学部教授）は、「大学の将来計画と里山」と題して専門的立場から提言を行った。

〔5頁に関連記事〕



和田副学長

## 本学へのお客さま



イルクーツク湖沼研究所パルフィンヴァ主任研究員  
（写真右）等ロシア人科学者 学長室にて



江蘇省友好交流代表团

大会議室にて



スロヴァキア工科大学モルナー学長（右から3人目）  
学長室にて



## サテライト・プラザ

## 「金沢大学サテライト・プラザ」

第12回 2月3日(土)

講師 小山 善子  
(医学部保健学科教授)

演題 「ゆれる子供の心 -キレない子供に育てるには-」

最近世間を震撼させている10代の子供の凶悪な事件。その背景に子供の心に何があるのか、キレる子供、病んだ子供の心の健康について。

講師は「わたしが答えを出すのではなく、この講演からみなさんがそれぞれ答えをだしてください」と述べた上で、「怒る」のではなく“しかる”こと、また、統計をもとにした資料から幼年期に我慢させることの重要性について語った。

来場者：51人

小山教授



写真部学生撮影

第13回 2月17日(土)

講師 川上 光彦  
(工学部教授)演題 「ともに住みよい豊かなまちづくりに向けて  
～ 景観・歴史的環境保全・バリアフリー～」

現在の高齢社会の中で、誰もが安心して暮らせるような生活環境づくりについて考えた。講演では、このことについて進んでいるヨーロッパや熊本の事例を紹介しながら金沢と比較した。

来場者：43人

◆金沢大学職員OBの組織の「健寿会」ではこの「ミニ講演」を同会の研修として活用した。(熱心にメモをとる参加者:写真手前)



川上教授



写真部学生撮影

金沢大学サテライトプラザ  
新年度から「西町教育研修館」で常設

現在、石川県社会教育センターで毎月第1, 3, 5土曜日に開設している金沢大学サテライトプラザが、4月より金沢市「西町教育研修館」で、土日祝日を含む毎日開設されることとなった。

このことについての詳細は、4月2日以降の本学ホームページに掲載する。(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)

## 英文リーフレット完成

この度、本学の広報物に、英文リーフレットが新たに加わった。

内容は、各部局の組織概要をポケットサイズにとりまとめたもの。海外出張時や来学者に配布するなど大いに活用願いたい。

なお、英文リーフレットについては、総務部国際交流課(264-5294)まで。



## 本学職員 米国タフツ大学へ調査出張



経理部主計課山本正一専門員（写真上・中央）、工学部西谷公作総務係長（写真上・右）、薬学部五島雅美総務係員（写真下・右）の3人は、2月4日から11日にかけて、本学行政職員の研修受入れ等について協議するため、米国タフツ大学（大学間交流協定校）へ赴いた。

なお、この正式な帰国報告については、3月19日に行うこととなっている。

写真上 タフツ大学で協議する西谷係長（右）と山本専門員（左）  
写真左 ハーバード大学前の公園で山本専門員（左）と五島係員（右）

## キャンパス点描

### 薬学部棟前のクスノキ

薬学部教授によって植えられたこのクスノキ。かつて、道路を整備する際、伐採の危機にあったが、これを無事乗り越え、今は4階立ての薬学部棟を優に越える大きさに育った。

日本のクスノキの北限であるという説もある。



宝町キャンパス 薬学部棟前にて

## 編集

平成12年9月から月2回市街地に開設した「金沢大学サテライトプラザ」が、平成13年4月から、土曜、日曜を含む毎日（火曜休）開設することで準備を進めている。また、平成12年10月から「アカンサスニュース」は頁数を増やし、リニューアルを行った。テレビや新聞などの報道機関へ情報提供を積極的に行い、本学の動きを地域に知ってもらっている。

平成12年4月に設置された企画広報室は、上記のほか、大学改革と点検・評価の業務も担当している。平成13年2月から始まっている「大学評価・学位授与機構」による「大学評価」は、新たに加わったものの一

## 後記

つ。これはいままでの大学が独自に行っていた点検・評価と違って、その内容が全国立大学等とほぼすべて公表されるということである。金沢大学に対する評価が「さらけ出され」、他大学とともに国内外に知れわたるということ。

「広報」「点検・評価」さらには「大学改革」、これらを推し進めるため、新年度からも企画広報室一丸となって業務に当たる決意である。御協力と御支援をお願いしたい。

（総務部企画広報室長 寺井嘉治）

平成13年3月16日発行  
（原則として毎月1回第3週に発行）

〒920-1192 金沢市角間町  
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5022  
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」〈愛称“KUPIS”（キューピーズ）〉  
（アドレス＝<http://www.kanazawa-u.ac.jp>）でもご覧いただけます。  
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール（E-mail）＝[general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。